

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名： 和田 幸則 所属： 横須賀市立小原台小学校

課題名： コンピュータを活用した学習指導の工夫

1. 課題の主旨

ここ数年間で家庭へのパーソナルコンピュータ（以降PC）の普及率はめざましい増え方をしている。横須賀市でも、学校にPC教室が整備され、40台の児童用コンピュータが導入され、学習に利用できるインフラが整備されてきた。また、児童の生活の中にもPCや携帯電話などのごく自然な形で入ってきている。このような中、学校教育の中でPCを活用した学習指導は、必要不可欠なものになってきている。そこで、授業(各教科・道徳・総合的な学習等)を通してPCの活用場面の実践的な研究を進めると共に、PCを使う上でのマナー・モラル・著作権についての指導について実践的に研究を進めてきた。

2. 活動状況

本校は、『自らの世界を拓く小原っ子』という校内研究テーマを設定し、平成15年度よりコンピュータを活用した情報教育の研究に取り組んできた。そして、本年度は、研究のサブテーマを「コンピュータを活用した学習指導の工夫」として、コンピュータを日々の学習の中に積極的に活用していくための研究を進めてきた。さらに、サブテーマを具現化するために「スキルの指導時間の精選と、教科学習の中でのスキル指導を図る」「コンピュータを使うと便利な場面を教師が知らせることで、活用の幅を広げる」「コンピュータを正しく、安全に使うことができるようにする」という3本の柱を設定した。

①「スキルの指導時間の精選と、教科学習の中でのスキル指導を図る」について

- ・パソコンを扱う上で必要なスキルの指導を系統的に行えるように、スキル指導と教科との関わりを全学年を通して縦系列で検討した「情報教育年間カリキュラム」を作成し、実践を行っている。
- ・特に、各教科の学習の中でパソコンを使う時に、パソコンスキルも合わせて習得できるような工夫を考えている。

②「コンピュータを使うと便利な場面を教師が知らせることで、活用の幅を広げる」について

- ・小学校でパソコンを使う機会としては、総合的な学習や社会科・理科などの教科学習の中でインターネットを利用した「調べ学習」をすることが多く、「コンピュータ＝インターネット」という意識を持っている児童も少なくない。そこで、教師側がインターネット以外でもコンピュータを使った楽しい学習がたくさんあるということ（コンピュータを活用した学習）を、授業を通して知らせていくことで、児童に、「コンピュータを使えばこんな便利なことがたくさんあるんだ」「コンピュータを使った勉強は楽しい」ということを知ってもらおうと考え、積極的にコンピュータを学習の中に取り入れてきた。

- ・ 学習の中にコンピュータを取り入れられる場面を学年毎に「年間指導記録」として、一覧にまとめてきた。
- ・ 中学年～高学年では、各教科、総合的な学習の中でデジタルカメラを使って写真を写し、それをパソコンに取り入れて印刷したり、グラフィックソフトで加工したり、パワーポイントなどのアプリケーションに貼り付けたりと、パソコンだけでなくデジカメ等の周辺機器と関係づけた活用についても研究を進めてきた。

③「コンピュータを正しく、安全に使うことができるようにする」について

- ・ パソコンやインターネットが普及してきた今日、「ネット上での危機管理」「マナー・モラルの低下」「著作権の侵害」などが切実な社会問題になってきている。本校では、コンピュータを活用する上では、マナー・モラル・著作権などの『心の指導』を深刻に受け止め、系統的に指導していると考え取り組んできた。そのための手立てとして、
 - a. マナー・モラル・著作権指導計画の検討を行い縦系列の指導計画表を作成した。
 - b. 「マナー・モラル・著作権指導計画表」の中から、特に重要な指導内容については、具体的な指導案を作成したり、学年毎に授業を行うなどして、指導方法について研究を進めた。
 - c. 著作権については、日々の教育の中で困っている内容を出し合い（6項目）、それについて専門の弁護士の協力を得て、「学校における著作権について」というQ&Aを作成した。

3. 結果

- ・ 低学年では、パソコンスキルの定着や授業への活用を意識しながら取り組んできたので、子どもたちがパソコンに触れる機会も増え使い慣れてきた。パソコンを使うことが「特別なこと」ではなく、日々の学習の一部となってきた。
- ・ 中学年・高学年でも、繰り返しの指導とさまざまな学習場面でPCを利用してきたためにパソコンスキルの操作レベルは指導とともにレベルアップしてきている。また、算数や国語・理科など教科学習におけるパソコンの活用場を広げていくことができた。これからも継続的なPCの利用を考えていきたい。

4. 今後の課題と発展

- ・ 児童一人一人を見るとスキルの個人差は大きいですが、継続して使うことによって、スキルレベルを高め、学習でスムーズに活用していけるように指導していきたい。その中からパソコンの便利さを児童に実感してほしいと考えている。また、さらに教科学習での活用機会を検討・実践していきたい、パソコンの活用の幅を広げていきたい。
- ・ マナーやモラル、著作権といった「心の指導」については、さらにしっかりと取り組んでいく必要があると考える。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

- ・ 財団のご理解をいただき、8台のデジタルカメラを購入することができました。同じ機種を8台そろえることができ、使い方の指導がたいへんしやすく、児童も間違えずに扱うことができるようになり、職員一同たいへん感謝しています。